

スポーツ柔整科 JT21A JT22A JT23A

分野	教育内容	必修	授 業 科 目	区分	単位	科目	1 年次		2 年次		3 年次	
		選択			数	時間	前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の 基盤人間と生活	必修	生物学	講義	4	60	30	30				
		必修	栄養学	講義	2	30	15	15				
		必修	医療コミュニケーション	講義	4	60	30	30				
		必修	情報リテラシー	演習	2	30	30					
		必修	医用英語	講義	2	30	15	15				
専門基礎	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ（運動器：骨格系、筋系）	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖学Ⅳ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	2	30	15	15				
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	15			15			
		必修	運動学	講義	2	60			30	30		
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	15			15			
		必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	15				15		
	疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	30					15	15
		必修	病理学	講義	2	60			30	30		
		必修	外科学概論	講義	2	30				30		
		必修	整形外科科学	講義	2	30				30		
		必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30			
		必修	リハビリテーション医学Ⅱ（高齢者の運動機能維持・回復）	講義	1	15				15		
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	30					15	15
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	必修	関係法規	講義	2	30					30	
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60					30	30
		必修	職業倫理	講義	1	15					15	
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	30			30			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	30				30		
		必修	柔道Ⅳ	実技	1	30					30	
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	15				15		
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	30	15	15				
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ（外傷保存療法の経過及び治癒の判定）	講義	2	60					30	30
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ（物理療法機器の取扱い）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ（柔道整復術の臨床的判定・医用画像）	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ（機能訓練指導）	講義	1	30					15	15
		必修	臨床柔道整復学Ⅹ	講義	1	30						30
		必修	臨床柔道整復学Ⅺ	講義	1	30						30
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅱ（臨床実習前施術試験等）	実技	1	30	15	15				
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅳ（高齢者の外傷予防）	実技	1	30						30
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	60			30	30		
		必修	柔道整復実技Ⅵ（競技者の外傷予防）	実技	1	30			15	15		
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	1	45			30	15		
		必修	柔道整復実技Ⅷ（機能訓練指導実技）	実技	1	30					30	
		必修	柔道整復実技Ⅸ（スポーツコンディショニング実技）	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60					30	30
		必修	柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60					30	30
		必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45				
臨床実習		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45			
		必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45		
		必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45	
		必修	臨床実習Ⅴ	実習	1	45						45

シラバス（授業計画書）

科目名（ 栄養学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

栄養素の生理的作用，エネルギー源としての役割と消化・吸収されるしくみについて，基本事項を学習する。

2 到達目標

栄養素の作用，消化器系の構造，栄養素が消化吸収・代謝されるしくみを説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書，授業プリント，PC プロジェクタを利用した講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

中間試験と後期試験成績で評価する。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%，後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより，授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため，小テストを実施する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版） 南江堂

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

栄養素の摂取と利用をテーマに，解剖学と生理学の内容を結びつけながら学習を進める。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目表に戻る

回数	授業内容
1	栄養素の性質(1)糖質 単糖類 二糖類 多糖類 グリコーゲン
2	栄養素の性質(2)タンパク質 必須アミノ酸と非必須アミノ酸
3	栄養素の性質(3)脂質 トリグリセリド リン脂質 コレステロール リポタンパク質
4	栄養素の性質(4)ミネラル カルシウム ナトリウム カリウム
5	栄養素の性質(5)ビタミン 生理作用と欠乏症
6	栄養素の代謝(1)細胞活動のエネルギー ATP 高エネルギーリン酸結合
7	栄養素の代謝(2)ATP の生成 解糖系 クエン酸回路 電子伝達系
8	栄養素の代謝(3)中間代謝 吸収期と空腹期
9	栄養素の代謝(4)エネルギー代謝 呼吸商 アトウォーター係数
10	栄養素の代謝(5)基礎代謝 安静代謝 睡眠代謝
11	消化器系の機能(1)消化器系の構成 機械的消化 咀嚼 嚥下 蠕動 分節
12	消化器系の機能(2)化学的消化 唾液 胃液 膵液 胆汁
13	消化器系の機能(3)消化管運動と消化液分泌の調節
14	消化・吸収のしくみ 小腸吸収上皮細胞 担体 乳化 ミセル カイロミクロン
15	中間試験
16	試験解説 まとめ復習
17	消化器系の構造・機能(1)消化管の基本構造 粘膜 粘膜固有層 筋層 神経叢
18	消化器系の構造・機能(2)口腔 口蓋 口峽 歯 咀嚼
19	消化器系の構造・機能(3)唾液腺 舌 舌乳頭
20	消化器系の構造・機能(4)咽頭 食道 嚥下(口腔相 咽頭相 食道相)
21	消化器系の構造・機能(5)腹膜 腹膜腔内器官と腹膜後器官 間膜
22	消化器系の構造・機能(6)胃 噴門と幽門 胃体 胃底 小弯 大弯 角切痕
23	消化器系の構造・機能(7)胃 胃腺 主細胞 壁細胞 副細胞
24	消化器系の構造・機能(8)小腸 十二指腸 大十二指腸乳頭 トライツ靱帯
25	消化器系の構造・機能(9)小腸 空腸 回腸 輪状ヒダ 腸絨毛 リーベルキューン腺
26	消化器系の構造・機能(10)大腸 盲腸 虫垂 バウヒン弁 上行結腸
27	消化器系の構造・機能(11)大腸 横行結腸 下行結腸 S 状結腸 直腸 肛門管
28	消化器系の構造・機能(12)肝臓 肝臓の葉 肝小葉 洞様毛細血管 毛細胆管
29	消化器系の構造・機能(13)肝臓 グリソン鞘 胆嚢 胆汁流路
30	消化器系の構造・機能(14)膵臓 膵管 ランゲルハンス島
31	後期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生物学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞について、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基本的な知識と用語を学び、解剖学・生物学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指す。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

前期では試験を90%、平常点を10%として成績を出し、後期でも試験90%、平常点10%で評価します。最終的に前期と後期の成績を平均して60%以上であれば合格とします。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数が無くなり、平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、忘れないように少しでもいいので復習を行ってください。

7 使用教材，教具

テキストとして毎回プリントを配ります。それと「サイエンスビュー生物総合資料」実教出版を使います。毎回持って来てください。

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきて、やる気をなくすかもしれませんが、重要な言葉は何度でも出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。初めは大変でも後からは必ず楽になります。諦めないことが大切です。夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名（松尾泰博）

所属（こころ医療福祉専門学校非常勤講師）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目表に戻る

科目名(生物学)

回数	授業内容
1	自然発生説の否定、生命の誕生
2	細胞の成分（タンパク質、糖質、脂質）
3	無機塩類、水、細胞の構造（細胞壁）
4	細胞の構造（核～リソソーム）、細胞骨格
5	細胞外基質、細胞膜、細胞接着、半透膜
6	浸透圧、選択的透過性、受動輸送、
7	能動輸送、膜動輸送、呼吸
8	好気呼吸、解糖系～電子伝達系、嫌気呼吸
9	脂肪・タンパク質からのエネルギー、呼吸商、細胞分裂前期
10	細胞分裂終期まで、減数分裂、配偶子の多様性、命の始まり
11	不分離と異数性、ヒトの生殖細胞の形成、
12	メンデルの遺伝法則（優性の法則、分離の法則）
13	メンデルの実験の検証、複対立遺伝子
14	Rh 式血液型、伴性遺伝、常染色体遺伝
15	中間試験
16	試験問題解説、国試過去問、胚葉の分化
17	DNA の構造、DNA と染色体、
18	半保存的複製、DNA の複製、テロメア、PCR
19	DNA の修復、RNA の種類と働き、暗号解読
20	タンパク質の合成、突然変異（前半）
21	突然変異（後半）、形質発現の調節（前半）
22	形質発現の調節（後半）、遺伝子変異とがん（ウイルスによる）、
23	ウイルスについて、遺伝子変異（生活習慣、遺伝性）、がんにかかわる遺伝子
24	遺伝子組み換え、制限酵素、プラスミド、tPA
25	ゲノム編集、遺伝子治療、クローン動物（前半）
26	クローン動物（後半）、再生医療、ヒトゲノム計画
27	生体防御システム、非特異的防御、炎症反応（前半）
28	炎症反応（後半）、特異的防御、抗体、B 細胞、T 細胞
29	MHC タンパク質、液性免疫、細胞性免疫
30	アレルギー、ワクチン、自己免疫疾患
31	定期試験
32	心と体、試験問題解説、国試過去問

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療コミュニケーション ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

真の患者中心の医療とは、患者が自分の治療について十分な説明を受け理解し、納得し、自発的に選択した上に成り立っている。そして、それには、医療者と患者の密なコミュニケーションが重要である。本授業では医療人として患者とより良いコミュニケーションをとるために、コミュニケーションの重要性やスキルを学習するとともに、相手との会話を成立させるためには、まず、正しい日本語を、正しい表現力で伝えられなければならない。そのためには、日常会話の語彙力はもとより、医療専門用語とその意味をどれだけ理解しているか、そしてそれら専門用語をどれだけ相手にわかりやすく表現し伝えられるか、という能力を高めることが重要である。

2 到達目標

医療コミュニケーションの要は「相手（患者）の心に自分の心を沿わせてみて、相手の心情を察し心の機微に触れること」である。いかに、相手の話を聞いて、適切に対応できるか。その基本となる会話力を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

スライド、配布資料をもとに語彙力を身に着けるために読み書き、コミュニケーション能力を養うためにグループワーク形式などを行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 80%、 授業態度 20%にて評価する

5 評価の際の特記事項

授業態度は出席状況、参加態度、欠席は減点する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

講義で配布される資料や演習課題をよく読み、わからない点は積極的に質問するなどして解消しておいてください。

7 使用教材、教具

配布資料

教具としてレポート用紙（A4）を各自準備する

8 学生へのメッセージ

コミュニケーション能力は、様々な場面で必要とされるものです。特に、医療関係に従事する者としては、不可欠な要素です。そのことをよく自覚し、本物の医療者となるべく邁進してください。

9 教員氏名（ 松本 雅美 ／ 舘川 大輔 ）

所 属（ ころ未来高等学校 ／ ころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 医療コミュニケーション ）

回数	授業内容
1	ガイダンス / プレイスメントテスト
2	コミュニケーションとは / コミュニケーションの手段
3	コミュニケーションをとるメリットと重要性 / 医療コミュニケーションとは
4	社会人にとっての敬語・マナーの重要性
5	医療接遇について
6	医療の基本スキル コミュニケーション能力
7	語彙力とは
8	コミュニケーション演習問題（1） ロールプレイ
9	コミュニケーション演習問題（2） ロールプレイ
10	コミュニケーション演習問題（3） ロールプレイ
11	コミュニケーション演習問題（4） ロールプレイ
12	コミュニケーション演習問題（5） ロールプレイ
13	コミュニケーション演習問題（6） ロールプレイ
14	まとめ レポートの課題について
15	中間試験 レポート作成
16	レポートの評価
17	医療におけるコミュニケーション
18	語彙力・コミュニケーション
19	コミュニケーション演習問題（7） ロールプレイ
20	コミュニケーション演習問題（8） ロールプレイ
21	コミュニケーション演習問題（9） ロールプレイ
22	コミュニケーション演習問題（10） ロールプレイ
23	コミュニケーション演習問題（11） ロールプレイ
24	コミュニケーション演習問題（12） ロールプレイ
25	漢字の読み書き
26	医学用語集演習問題
27	コミュニケーションまとめ演習問題（1）
28	コミュニケーションまとめ演習問題（2）
29	コミュニケーションまとめ演習問題（3）
30	心が動くコミュニケーション（レポート課題）
31	定期試験 レポートの作成
32	レポートの評価

シラバス（授業計画書）

科目名(情報リテラシー)

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1. 授業の内容

コンピュータ演習の後半では、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべき、パワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Word での表やグラフ作成の基礎と Excel の連携について学習します。

2. 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来る。また、プレゼンや報告書の制作スキルを習得します。

3. 授業の方法

PC 室において、講師用 PC をプロジェクターに写し、捜査方法を同時に行いながら、修得します。又、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4. 成績評価方法・基準

定期試験 → 70%

授業態度 → 30%

5. 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断します。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、PC 室の空き時間は自由に PC が使用可能である為、事前に教科書の予習・復習をしてくることを。

7. 使用教材・教具

「よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019」
(FOM 出版)

8. 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」を Microsoft 社の「Office2019」を使用して基礎から学習します。今回は Word, Excel, PowerPoint を基礎から学習しますので、日常生活でも活用してください。

9. 教員氏名(家富 浩人)

所 属(こころ医療福祉専門学校)

10. 特記事項

実務経験のある常勤教員による授業科目

科目表に戻る

科目名(情報リテラシー)

回数	授業内容
1	PC とアプリケーション (Office2019) の全体説明
2	PowerPoint 基礎知識
3	PowerPoint プレゼンテーション作成
4	PowerPoint スライドショーの実行
5	Word 基礎知識
6	Word 文書作成
7	Word グラフィック機能
8	Word ワードでの表作成
9	Excel 基礎知識
10	Excel データ入力
11	Excel エクセルでの表作成
12	Excel グラフの作成
13	Excel データ分析
14	Word・Excel アプリケーション間でのデータ共有
15	定期試験
16	答案返却及び解説 授業の進捗度・理解度等により順序が変更する場合もある。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医用英語 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

グローバル化が加速する中、日本国内に居住する外国人の数は増加しています。同時に海外、特に開発途上の国々では、日本人の医療スタッフが多数活躍しています。外国人患者との意思疎通のために、英語運用能力を基礎からマスターします。

2 到達目標

前期は、前半に日常生活を送るうえで、欠くことのできない表現を場面別に習得し、運用練習を行います。コミュニケーションの難しさを克服し、意思疎通がスムーズに行えた時の喜びを体得しましょう。「外国語」という障壁（バリア）をできるだけ取り除きましょう。後半は、テキストを使用し、実際の業務で頻繁に使用される表現を場面別に習得し、運用練習を行います。

後期も、引き続きテキストを使用します。外国人患者の信頼を獲得し、安心して治療を受けられるようコミュニケーションスキルを高めます。

3 授業の方法

基本的な流れは、「表現習得」⇒「ペア練習」の形をとります。さまざまな表現を習得した後、ペアで練習を行い、コミュニケーション能力を高めます。なお授業予定は、進捗状況によって変更となる場合があります。

4 成績評価方法・基準

定期試験及び課題（80％） 授業での活動・参加状況（20％）

5 評価の際の特記事項

定期試験はもちろん重要ですが、出席状況・授業中の取り組み（ペア練習）を上記の割合で加味し、総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業以外では、普段から声に出して学んだ内容を復習してください。

7 使用教材、教具

前期は、オリジナルの教材を配布し使用します。各授業の前に配布されますので、バインダーに入れて、保管してください。

後期は、テキスト「柔道整復師のための英会話表現」を使用します。

8 学生へのメッセージ

英語の得意・不得意は問いません。学生の皆さんの前向きな取り組みを期待しています。「英語検定」等の資格試験へチャレンジしてみることをお勧めします。

9 教員氏名（ 白石 克文 ）

所 属 （ 長崎南山高等学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目表に戻る

1 1 科目名（ 医 用 英 語 ）

回数	授業内容
1	教員自己紹介・授業の概要・学生の皆さんの自己紹介
2	学生の皆さんの自己紹介（続き）
3	日本語にない英語の発音について・あいさつを交わす
4	気分・調子・体調について話す
5	お礼をいう（基本・応用）
6	お詫びをする
7	アドバイスする
8	誘う・応じる・断る
9	電話をかける・受ける・電話でのさまざまな応対
10	とっさの時に役立つ表現
11	柔道整復について説明するための表現・受付のための表現
12	医療面接のための表現 その1
13	医療面接のための表現 その2
14	総復習
15	定期試験 ※中間試験
16	答案返却および解説・前期の総復習
17	身体観察・評価のための表現
18	評価の告知のための表現
19	施術開始時、施術中の汎用的表現・整復の施術のための表現 その1
20	整復の施術のための表現 その2
21	固定の施術のための表現 その1
22	固定の施術のための表現 その2
23	物理療法の施術のための表現 その1
24	物理療法の施術のための表現 その2
25	運動療法の施術のための表現
26	手技療法の施術のための表現
27	処置・施術後の表現 その1
28	処置・施術後の表現 その2
29	会計のための表現
30	総復習
31	定期試験
32	答案返却および解説・後期の総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

人体の骨格および筋肉について学習する。

2 到達目標

人体の骨格の構造と筋肉の起始停止やその作用について理解する。

3 授業の方法

PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。骨および筋の模写。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂第2版）医師薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

運動器は施術所などで治療する際の基礎的な知識です。暗記が多くなりますが、一つ一つ覚えましょう。

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	解剖学総論
2	骨格系 総論 身体構造の全体像
3	脊柱の構造
4	胸郭の構造
5	上肢骨（１） 上肢帯（鎖骨、肩甲骨）
6	上肢骨（２） 自由上肢①（上腕骨、橈骨、尺骨）
7	上肢骨（３） 自由上肢②（手根骨）
8	下肢骨（１） 下肢帯（寛骨）
9	下肢骨（２） 自由下肢①（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨）
10	下肢骨（３） 自由下肢②（足根骨）
11	頭蓋骨（１） 脳頭蓋
12	頭蓋骨（２） 顔面頭蓋
13	前期まとめ 演習問題①（骨総論、四肢の骨）
14	前期まとめ 演習問題②（軸骨格、頭蓋骨）
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	筋系 総論
18	体幹の筋（１） 胸部、腹部
19	体幹の筋（２） 背部
20	上肢の筋（１） 上肢帯、上腕屈筋・伸筋
21	上肢の筋（２） 前腕屈筋
22	上肢の筋（３） 前腕伸筋
23	下肢の筋（１） 下肢帯
24	下肢の筋（２） 大腿伸筋・屈筋・内転筋
25	下肢の筋（３） 下腿伸筋・屈筋・腓骨筋群
26	頭頸部の筋（１） 表情筋
27	頭頸部の筋（２） 咀嚼筋
28	後期まとめ（１） 上半身の筋
29	後期まとめ（２） 下半身の筋
30	後期まとめ（３） 頭頸部の筋
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 1年

1 授業の内容

解剖学を学習する上で必要となる用語や身体構造の成り立ちについて概説する。脈管系および内臓系（消化器系・呼吸器系・泌尿生殖器系）について学習し、生命活動の根幹を担う器官の形態・構造を理解する。

2 到達目標

解剖学を学習する意義を理解し、基礎医学を学習するうえで求められる人体構造への理解と尊厳を身につける。

3 授業の方法

教科書の内容を中心として、PC プロジェクタを利用したスライドによる講義を行う。スライド内容についてはレジュメ資料を配布し、講義内容理解の補助とする。随時小テストを実施し、講義内容の理解を確認する。

4 成績評価方法・基準

定期試験の成績を80%、小テストの成績合計を20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を重視する。講義理解度確認のために重要な箇所については国家試験形式の小テストを実施する。自己採点評価を通じて知識の補完を図るとともに、国家試験に向けた自主学習法を習得する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学」（改訂版第2版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は医療を学ぶ全ての学生が通過しますが、おぼえなければならないことの多さと皆が苦勞するところです。近代解剖学の歴史は500年にも及び、得られた知見は膨大です。それ故全てを網羅することには困難が伴いますが、同時に知識の宝庫としての面白さもあります。苦しい中でも楽しみを見つけつつ知識を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 井川 一成 ）

所 属（ 常岡歯科診療所 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目表に戻る

科目名 (解剖学Ⅱ)

回数	授業内容
1	人体解剖学概説 A 意義と分類 B 細胞および組織 (細胞)
2	人体解剖学概説 B 細胞および組織 (組織) C 発生
3	人体解剖学概説 D 器官系統 E 人体の区分 小テスト
4	脈管系 A 総論
5	脈管系 B 心臓
6	脈管系 B 心臓 C 心脈管系 小テスト
7	脈管系 C 心脈管系 (動脈系) 小テスト
8	脈管系 C 心脈管系 (動脈系)
9	脈管系 C 心脈管系 (動脈系) 小テスト
10	脈管系 C 心脈管系 (静脈系)
11	脈管系 C 心脈管系 (静脈系) 小テスト
12	脈管系 D リンパ系 小テスト
13	脈管系 試験前ポイント解説
14	脈管系 試験前ポイント解説
15	中間試験
16	試験解説
17	内臓系 A 消化器
18	内臓系 A 消化器 小テスト
19	内臓系 A 消化器
20	内臓系 A 消化器 小テスト
21	内臓系 B 呼吸器 小テスト
22	内臓系 B 呼吸器
23	内臓系 B 呼吸器 小テスト
24	内臓系 C 泌尿器 小テスト
25	内臓系 C 泌尿器
26	内臓系 D 生殖器 小テスト
27	内臓系 D 生殖器
28	内臓系 D 生殖器 小テスト
29	内臓系 試験前ポイント解説
30	内臓系 試験前ポイント解説
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

生理学の前半として「生理学の基礎」「筋」「神経」「運動」「感覚」「内分泌」「生殖」について学ぶ。また味覚の体験実習を1回行なう。

2 到達目標

- ・生理学の位置づけを理解する。
- ・神経の基本的機能を説明できる。
- ・感覚器系の機能を説明できる。
- ・生殖器系の機能を説明できる。
- ・筋肉の機能を説明できる。
- ・運動系の機能を説明できる。
- ・内分泌系の機能を説明できる。

3 授業の方法

教科書やパワーポイント・プリントを用いて授業を進める。その日の授業で学んだことを確認できるよう授業途中または最後に小テストを行う。また单元ごとに国家試験問題を用いて問題演習を行うことにより、知識習得の確認と定着を行う。さらに項目「感覚の生理」では特殊感覚である味覚の実習を行い、味覚障害を体験することにより理解を深め、生理学への興味を引き出す。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、平常点（出席および小テスト）を 20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

前期と後期に分けて2回、定期テストを行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

单元ごとに教科書および配布プリントを用いて、復習を中心とした学習を行ってください。授業で配布した国家試験問題は必ず復習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

初めて生理学の教科書を読んでもひとりで理解することは難しいかもしれません。しかし生理学は自分の身体の中で起こっていることを学ぶ、とても身近な学問です。「生きる」ということがどんなに素晴らしいメカニズムで成り立っているかを感じ、興味を持って取り組んでもらえるよう、わかりやすい授業を心がけますので、授業でできる限り学び取ってください。

9 教員氏名（ 藤山 理恵 ）

所 属（ 長崎大学生命医科学域総合歯科臨床教育学分野 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目表に戻る

科目名 (生理学 I)

回数	授業内容
1	1. 生理学とは A 細胞の構造と機能 前半
2	A 細胞の構造と機能 後半
3	B 組織・器官と生体の機能系
4	C 生体の恒常性と統合機能
5	D 体液の区分と組成
6	2. 筋の生理 A 骨格筋 前半
7	A 骨格筋 後半
8	B 心 筋
9	C 平滑筋
10	3. 神経の生理 A 神経信号の伝達
11	B 神経系の構成
12	C 脳の高次機能
13	D 内蔵機能の調節
14	まとめ
15	前期試験
16	答案返却・解説
17	4. 運動の生理 A 運動の調節 B 運動神経と運動単位
18	C 脊髄による反射とその調節
19	D 脳幹による運動調節 E 高次運動機能
20	5. 感覚の生理 A 感覚の一般的な特性
21	B 特殊感覚 味覚の体験実習
22	C 体性感覚
23	D 内臓感覚 E 痛覚
24	6. 内分泌 A 内分泌腺とホルモン
25	B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき 前半
26	B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき 後半
27	C ホルモンによる内部環境の恒常性の維持
28	7. 生 殖 A 性分化 B 男性生殖器
29	C 女性生殖器 D 妊娠と分娩
30	まとめ
31	後期試験
32	答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学 I ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

人体の基本的な仕組みについて，解剖学と生理学を統合して総合的に理解する。

2 到達目標

人体の仕組みの基本的な用語について，簡単に説明できるようになる。

3 授業の方法

簡単なプリントを配付し，スライドと板書で行う。

（2023年度はオンライン授業）

4 成績評価方法・基準

期末試験

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

別に授業がある解剖学と生理学の学習と合わせて行う。

7 使用教材，教具

「のほほん解剖生理学」（永岡書店）

8 学生へのメッセージ

別に授業がある解剖学と生理学で理解が難しい内容があれば，特に取り上げて解説する。

9 教員氏名（ 藤村 幸一 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (解剖生理学 I)

回数	授業内容
1	解剖生理学とは
2	細胞
3	皮膚と膜
4	血液循環
5	神経
6	感覚器
7	内分泌
8	骨格と筋
9	呼吸器
10	消化器
11	泌尿器
12	生殖器
13	免疫
14	おさらい
15	後期試験
16	解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名(柔道 I) 後期

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1. 授業の内容

相対する二人が、互いに相手の動きに応じて技能を競い合う格闘形式の運動であるので、相手を尊重し安全に練習や行動ができる能力を育てる。

2. 到達目標

基本動作（移動、崩し）と受身の習得を中心に学習させ、個人の体力、能力に応じた安全で効果的な練習方法によって柔道技術の習得を目標とする

3. 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

4. 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

6. 授業時間外学習

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。
特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7. 使用教材，教具

柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）など。資料を適宜配布する。

8. 学生へのメッセージ

初心を忘れず、怪我に注意して毎回の授業に取り組んで下さい。

9. 教員名 (宮田 哲弘)

所 属 (ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科)

実務経験の詳細 (施術所にて柔道整復師としての実務経験あり)

10. 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名(柔道Ⅰ)

回数	授業内容
1	ガイダンス、作法・姿勢・道衣の着方、身体慣らし
2	身体慣らし、後方受け身、側方受け身
3	後方受け身、側方受け身、前方受け身
4	前方回転受け身、組手
5	前方回転受け身、崩し方
6	受け身練習、組んだ姿勢から崩し
7	受け身練習、組んだ姿勢から崩し練習
8	受け身練習、組んだ姿勢から崩し練習
9	受け身練習、組んだ姿勢から受け身の練習
10	受け身練習、組んだ姿勢から受け身の練習
11	受け身練習、足技（膝車）
12	受け身練習、足技（支え釣り込み足）
13	受け身練習、足技の攻防
14	一年次のまとめ
15	実技試験
16	試験結果発表、復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の根本ともいえる外傷「骨折」の施術方法を知るために、基礎医学である解剖学及び生理学の学習と並行しながら、骨の機能と構造を理解し、骨折についての基礎を学習する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度の評価は、授業に対しての積極的な姿勢、出席状況等を加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画（シラバス）を参考に、その日に学習する範囲を教科書で確認し、事前に読んでおいてください。授業終了後は、教科書を読み返して、必ず復習してください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせずに、その都度質問をするなりして、吸収してください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復術および柔道整復師の沿革 P2～P6
2	人体に加わる力，損傷に関する身体の基礎的状态，損傷時に加わる力 P12～P15
3	骨の形態と機能① P20～
4	骨の形態と機能②
5	骨損傷の概説 P22
6	骨損傷の概説：骨損傷に関わる力，骨損傷の分類①：性状による分類
7	骨損傷の分類②：程度による分類，骨折線の方法による分類
8	骨損傷の分類③：外創との交通の有無による分類，外力の働いた部位による分類
9	骨損傷の分類④：外力の働き方による分類，部位による分類，経過による分類
10	骨折の症状：局所症状，全身症状①
11	骨折の症状：局所症状，全身症状②
12	骨折の合併症①：併発症
13	骨折の合併症②：続発症
14	骨折の合併症③：後遺症
15	中間試験
16	試験解説
17	骨折分類の復習①
18	骨折分類の復習②
19	小児骨折の特徴①
20	小児骨折の特徴②
21	高齢者骨折の特徴
22	骨折の癒合日数，骨折の治癒経過
23	骨折総論まとめ復習
24	骨折各論 ― 頭部，顔面部の骨折①
25	頭部，顔面部の骨折②
26	頭部，顔面部の骨折③
27	頸椎の骨折
28	胸椎の骨折
29	腰椎の骨折
30	まとめ復習
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の概要

関節損傷および軟部組織損傷各論を学ぶうえの基礎として、各組織の構造と機能、それらの損傷総論を学習し、理解する。

各論では顎関節脱臼、脊椎の脱臼、上肢の脱臼へと学習を進めていく。

2 到達目標

ある程度の解剖学の予習を一緒におこないながら軟部組織損傷の分野を理解していく。解剖学などの専門基礎分野を学習しながら、柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての基礎を理解することを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

4 成績評価方法

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後には、その日のうちに必ず復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

毎日の復習を習慣にしてください。解らないところは自分で調べて、それでも解らないことがあれば、質問して残さないようにしましょう。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所での実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション / A 関節の構造と機能
2	B 関節損傷の概説
3	C 関節損傷の分類
4	D 損傷される組織 E 鑑別診断を要する類症
5	F 関節構成組織損傷（1）靱帯，関節包の損傷
6	F（2）関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷（3）関節軟骨損傷
7	F（4）その他関節構成組織の損傷（関節唇，関節半月・円板，滑液包，神経・血管）
8	関節損傷の復習①
9	関節損傷の復習②
10	G 脱臼総論①
11	G 脱臼総論②
12	G 脱臼総論③
13	脱臼総論の復習
14	前期のまとめ
15	定期試験
16	定試験解説 まとめ復習
17	顎関節脱臼（1）
18	顎関節脱臼（2） / 頸椎脱臼
19	胸椎の脱臼 / 腰椎の脱臼
20	鎖骨の脱臼（1）
21	鎖骨の脱臼（2）
22	肩関節脱臼（1）
23	肩関節脱臼（2）
24	肘関節脱臼（1）
25	肘関節脱臼（2）
26	手関節の脱臼（1）
27	手関節の脱臼（2）
28	手根中手関節脱臼
29	指節間関節脱臼
30	後期のまとめ
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

筋、腱および末梢神経損傷各論を学ぶうえの基礎として、筋、腱、神経の構造と機能、それらの損傷総論を学習し、理解する。

外傷の診察方法、治療法、患者の指導管理を学び、臨床現場に活用できる知識を習得する。

2 到達目標

解剖学などの専門基礎分野を学習しながら、柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての基礎を理解することを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後には、その日のうちに必ず復習してください。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」 南江堂

プリント資料

8 学生へのメッセージ

学習についてこられるように全授業参加で臨んでください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	筋の損傷 ― A 筋の構造と機能
3	筋の損傷 ― B 筋損傷の概説 C 筋損傷の分類
4	筋の損傷 ― D 筋損傷の症状 E 筋損傷の治癒機序 F 予後
5	筋の損傷 まとめ復習
6	腱の損傷 ― A 腱の構造と機能
7	腱の損傷 ― B 腱損傷の概説 C 腱損傷の分類
8	腱の損傷 ― D 腱損傷の症状 E 腱損傷の治癒機序
9	腱損傷 まとめ復習
10	末梢神経の損傷 ― A 神経の構造と機能
11	末梢神経の損傷 ― B 神経損傷の概説 C 神経損傷の分類
12	末梢神経の損傷 ― D 末梢神経損傷の症状 E 末梢神経損傷の治癒過程
13	末梢神経の損傷 まとめ復習
14	復習 試験対策
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習
17	診察 ― A 診察時の注意点 B 診察手順の概説
18	診察 ― C 診察の時期による分類 D 治療計画の作成 E 施術録の扱いと記録
19	診察 まとめ復習
20	治療法 整復法 ― A 徒手整復施行時の配慮 B 骨折の整復
21	治療法 整復法 ― C 脱臼の整復法
22	治療法 ― 後療法 (2)
23	治療法 ― 後療法 (3)
24	指導管理 (1)
25	指導管理 (2)
26	外傷予防 (1)
27	外傷予防 (2)
28	まとめ復習 (1)
29	まとめ復習 (2)
30	まとめ復習 (3)
31	定期試験
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ） 集中

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な下肢骨折・脱臼の知識を深め、担当教員の実務経験を基にした、患者への接し方、所見の取り方、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%， 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度の評価は、授業に対しての積極的な姿勢、出席状況等を加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画（シラバス）を参考に、その日に学習する範囲を教科書で確認し、事前に読んでおいてください。授業終了後は、教科書を読み返して、必ず復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせずに、その都度質問をするなりして、吸収してください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所にて実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	骨盤骨の解剖（骨格）
2	骨盤骨骨折
3	大腿骨近位の解剖（骨格）
4	大腿骨近位部の骨折 1
5	大腿骨近位部の骨折 2
6	股関節の構造（関節構造） ／ 股関節脱臼 1
7	股関節脱臼 2
8	大腿骨骨幹部の解剖（骨格） ／ 大腿骨骨幹部骨折 1
9	大腿骨遠位の解剖（骨格） ／ 大腿骨遠位部の骨折 1
10	大腿骨遠位部の骨折 2
11	膝関節の解剖と機能（関節構成組織）
12	膝関節脱臼
13	下肢骨折・脱臼復習 1 （骨盤骨骨折～膝蓋骨脱臼）
14	下肢骨折・脱臼復習 2 （骨盤骨骨折～膝蓋骨脱臼）
15	中間試験
16	試験解答解説，まとめ復習
17	下腿骨近位の解剖 ／ 下腿骨近位端部骨折
18	膝蓋骨の解剖 ／ 膝蓋骨骨折 膝蓋骨脱臼
19	下腿骨幹部の解剖 ／ 下腿骨骨幹部骨折 1
20	下腿骨骨幹部骨折 2
21	下腿遠位部の解剖 ／ 下腿遠位部骨折 1
22	下腿遠位部の骨折 2
23	下腿遠位部の骨折 3
24	足根骨の解剖（骨格，関節構造）
25	足根骨部の骨折 1
26	足根骨部の骨折 2
27	足根骨部の骨折 3 足関節部の脱臼
28	中足骨の解剖 ／ 中足骨の骨折・脱臼
29	趾骨の解剖 ／ 趾骨の骨折・脱臼
30	下肢骨折・脱臼復習 （下腿骨近端端部骨折～趾骨骨折）
31	定期試験
32	試験解答解説，まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

診察法の基礎および、体表解剖をもとに触診の要点を学び、併せてスポーツコンディショニングの基礎を学ぶ。

2 到達目標

診察法の手順を学習し、臨床への基礎を身に付け、さらに体表解剖をとおして、触診が適切に実行できるように、その基礎を習得する。

診察法、触診法をスポーツコンディショニングに応用するため、コンディションについての基礎を学習し、柔道整復師の業務を自覚することを目標とする。

3 授業の方法

プリントを配布し、PC プロジェクターを利用した PowerPoint による講義

4 成績評価方法・基準

基本定期試験で評価するが、課題・出席率・授業態度も加味する

5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる（認定実技要綱より）

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

課題プリントを配布し、予習教材として活用

配布プリントを復習教材として活用

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂
配布プリント

8 学生へのメッセージ

理論の知識を深め、資格取得後においても活用できるように一緒に考え学びましょう

9 教員氏名（ 伊藤 元太郎 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 診察 理論編 P86～P89
2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察 実技編 P5～P9
3	体表解剖① 上肢
4	体表解剖② 下肢
5	体表解剖③ 体幹
6	上肢テーピングの留意点
7	下肢テーピングの留意点
8	上肢触診の要点①
9	上肢触診の要点②
10	下肢触診の要点①
11	下肢触診の要点②
12	体幹触診の要点①
13	体幹触診の要点②
14	まとめ復習
15	定期試験
16	定期試験解説 まとめ復習
17	スポーツコンディショニングの基礎：コンディショニングとは
18	コンディションに関係する要因
19	コンディションを崩す要因とは
20	コンディショニングのポイント①
21	コンディショニングのポイント②
22	プライマリーチェックの指標
23	スポーツ障害の発生要因
24	ストレッチング理論①
25	ストレッチング理論②
26	各運動領域におけるストレッチング①
27	各運動領域におけるストレッチング②
28	各運動領域におけるストレッチング③
29	各運動領域におけるストレッチング④
30	まとめ復習
31	定期試験
32	定期試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

- 1 授業の概要
柔道整復術の基礎となる包帯法、軟性材料、硬性材料について基本技術の修得。
- 2 到達目標
基本包帯法、冠名包帯法などの技法を修得し、各部位への包帯固定ができる。
テーピングの基礎を修得する。軟性材料、硬性材料を知る。
- 3 授業方法
教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践
- 4 成績評価方法
定期試験 80% 授業態度 20%
- 5 評価の際の特記事項
授業態度の評価は、身だしなみ(実習着の状態)、授業への積極性、出席状況などを加味します。
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）
授業時間以外の反復練習が技術向上の鍵です。
様々な体型・体格の方、違う性別の方に包帯を巻くことも大事です。
- 7 使用教材、教具
全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」南江堂
全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」第7版 南江堂
全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編」第2版 南江堂
- 8 学生へのメッセージ
・陣内和幸（前期）
実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し、施術法習得の一環として、確実に基礎が身に付くように弛まぬ努力をしてください。
実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

・舘川大輔（後期）
認定実技につながる固定具作製や固定具を用いた包帯法を習得して下さい。
- 9 教員氏名（ 陣内 和幸 ／ 舘川 大輔 ）
所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）
実務経験（ 施術所で施術管理者としての実務経験あり ）

- 10 特記事項
実務経験のある教員による授業科目

科目表に戻る

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

回数	授業内容
1	前期ガイダンス 実習の受け方 包帯固定学
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	基本包帯法 ①環行帯、螺旋帯、蛇行帯
5	基本包帯法 ②折転帯、亀甲帯、麦穂帯
6	各部位 手部・手指部
7	各部位 下腿部・足部
8	各部位 足関節部
9	冠名包帯法 デゾー包帯法（１）
10	冠名包帯法 デゾー包帯法（２）
11	冠名包帯法 ヴェルポー包帯法、ジュール包帯法
12	三角巾を用いた固定
13	各部位の基本包帯法（１）
14	各部位の基本包帯法（２）
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習
17	各部位への包帯法 復習 上肢 （１）
18	各部位への包帯法 復習 上肢 （２）
19	各部位への包帯法 復習 下肢 （１）
20	各部位への包帯法 復習 下肢 （２）
21	テーピング（１）
22	テーピング（２）
23	テーピング（３）
24	硬性材料作成① － 厚紙副子固定 上肢
25	硬性材料作成② － 厚紙副子固定 下肢
26	硬性材料作成③ － 金属副子 上肢
27	硬性材料作成③ － 金属副子 下肢
28	テーピング 足関節、膝関節
29	テーピング 手指、肘関節
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の診察法の基礎を学ぶ。
- ・テーピングの基礎技術を学ぶ。
- ・スポーツコンディショニングの基礎実技を学ぶ。
- ・臨床実習についてのオリエンテーション

2 到達目標

- ・診察法の手順を，医療面接をもとにロールプレイなどを行いながら学んでいく。
- ・テーピングの種類，巻き方，応用などを実技で習得する。
- ・臨床実習を受講するための心構えと基礎知識を身につけることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら，診察法の基本を，ロールプレイを通して行う。
互いにテーピングを施行し，その効果を評価し合う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）

4 5 分授業になるので，各自予習、復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・実技授業になりますので，白衣は必ず着用してください。
- ・臨床力を身に付けるために，まじめに実技実習に取り組んでください。
- ・白衣は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復師業務
2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察 実技編 P5～P9
3	損傷の診察（視診・問診）
4	体表解剖：上肢触診
5	体表解剖：下肢触診
6	体表解剖：体幹触診
7	上肢テーピング①
8	上肢テーピング②
9	下肢テーピング①
10	下肢テーピング②
11	下肢テーピング③
12	ロールプレイングを用いた触診①
13	ロールプレイングを用いた触診②
14	前期まとめ
15	定期試験
16	試験解説 まとめ復習
17	スポーツコンディショニングの基礎：コンディショニングとは
18	コンディションに関係する要因
19	コンディションを崩す要因とは
20	コンディショニングのポイント①
21	コンディショニングのポイント②
22	プライマリーチェックの指標
23	スポーツ障害の発生要因
24	ストレッチング理論の実際①
25	ストレッチング理論の実際②
26	臨床実習について （１）
27	臨床実習について （２）
28	臨床実習について （３）
29	後期まとめ復習 （１）
30	後期まとめ復習 （２）
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の各種固定法および徒手検査法，後療法の実際を学ぶ。
臨床実習前適応試験の実施

2 到達目標

- ・柔道整復術を基本技法の固定材料の種類を学び，それらの実践技術を修得する。
- ・徒手検査法の知識と技術を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い，施術法を体得する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%，授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

欠席回数，容姿（白衣，髪色，爪など），衛生材料の管理を授業態度として評価。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に，事前に内容を確認，予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」 南江堂
全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」 南江堂
資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・柔道整復術の基本である固定法の基礎を身に付ける努力をしてください。
- ・徒手検査法の技術を臨床現場で発揮できるように基礎を身に付けてください。
- ・実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し，施術法習得の一環として，確実に基礎が身に付くように弛まぬ努力をしてください。
- ・実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし，装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）
実務経験の詳細（施術所での実務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	軟性材料① ― 基本包帯法（１） 部位別包帯法 上肢
2	軟性材料② ― 基本包帯法（２） 部位別包帯法 下肢
3	軟性材料③ ― 基本包帯法（３） 部位別包帯法 体幹
4	固定法① 上肢
5	固定法② 上肢
6	固定法③ 上肢
7	固定法④ 上肢
8	固定法⑤ 上肢
9	固定法⑥ 下肢
10	固定法⑦ 下肢
11	固定法⑧ 下肢
12	固定法⑨ 下肢
13	固定法⑩ 下肢
14	まとめ復習
15	中間試験
16	試験解説
17	徒手検査法①
18	徒手検査法②
19	徒手検査法③
20	徒手検査法④
21	治療法：骨折の整復法，脱臼の整復法，軟部組織損傷の初期処置
22	治療法：固定の目的・固定の種類・固定の肢位，固定の期間・固定の材料
23	治療法：後療法 ― 手技療法①
24	治療法：後療法 ― 手技療法②
25	治療法：後療法 ― 手技療法③
26	治療法：後療法 ― 手技療法④
27	治療法：後療法 ― 運動療法①
28	治療法：後療法 ― 運動療法②
29	治療法：後療法 ― 運動療法③
30	まとめ
31	定期試験
32	実技試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所、臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（受付、事務、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の20分前には施設に到着し、10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

回数	
	2月～3月の間で，5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。